

救命ボランティア

豊川市民マラソンにAED配備

関心高めランナーサポート



救命ボランティアとして参加する宝陵高校
専攻科衛生看護科の学生たち一同校で

豊川市内で19日開催される市民マラソン「2006トヨカワシティマラソン大会」で、救命ボランティアがAED(自動体外式除細動器)25台を備えて待機することになった。ボランティアは、救急

急車到着以前に使用すれば、救命率が高まる。

救命ボランティアを呼びかけたのは、豊川市消防署東分署に勤務する救

急救命士・木内史典さん(32)。だれでも扱える

AEDだが、救急救命講習会などに携わる中で、

住民の認知度が低く「多くの人に知ってもらいたい」という思いが募った。

マラソン大会では、ゴール前後で急性心不全、

心筋梗塞(こうそく)などで倒れる事例、AED

が実際に使われた事例があり、シティマラソン大

会でもAEDを備え、ランナーの安全を支えるとともにAEDをアピールすることにした。

ボランティアには、豊川を中心に豊橋、新城の救急救命士や救急隊、看護師養成の宝陵高校専攻科衛生看護科の学生、医師、介護福祉士ら18歳から40代の24人が賛同。AEDは豊橋市内の病院「豊橋ハートセンター」から借りることができた。

同病院は、AEDの普及に積極的で「多くの人を啓発する機会になれば」と快く貸し出した。

大会は、市陸上競技場を発着点に5、10コースで行われ、中学生から87歳まで約1630人が参加を予定。AED25台は、救護車と競技場内のほか、コースになる競技場出入り口付近、市体育館前など姫街道沿い、

大型ショッピングセンター前の開運橋東などでボランティアが持つ。

木内さんは「AEDの普及と1人でも多く知識を持ってもらうことにながれば」と話している。

(中村晋也)